

田んぼの学校

5月20日、鮎貝小学校の5年生33人がサンファームしらかか前の田んぼで田植えを体験しました。

初めは田んぼの泥に悪戦苦闘する子どもたちでしたが、慣れてくると次第に真剣な表情に変わり、丁寧に気持ちを入れて苗を植えていました。タニシやカエルなど、田んぼの生き物にも触れ合いながら田植えを楽しみました。

田植えの後には、地域の方に作っていただいた、おにぎりや山菜汁をごちそうになり、横澤大鷹君は「地域の人が生懸命作ってくれたことに感謝したい」と感想を述べてくれました。

普段なかなか学べないことを、田んぼの学校で学んだ子どもたちでした。



田んぼで学ぶ。

稲になるまで

ひがしね保育園では5月26日、園児たちが保育園近くの田んぼで田植えを体験しました。

初めて田植えを体験する子どもたちは、全身泥だらけになりながら、一生懸命苗を植えました。最後に苗の植え方を教わったJA青年部の皆さんと、「秋の収穫まで苗がしっかりと育つように、時々田んぼを見に来て成長を見守ること」を約束しました。秋の収穫が楽しみです。



全国大賞受賞

「21世紀土地改良区創造運動全国選考会大賞」において、水土里ネット白鷹町が大賞を受賞されました。

水土里ネット白鷹町では、鮎貝小学校と連携して行っている「田んぼの学校」をはじめ、次世代育成・地域活性化につながる活動を積極的に取り組んでいます。このたび、これらの活動の趣旨と成果に多くの称賛が寄せられ、活動の副題として「次世代育成チャレンジャー」と命名されました。

おめでとうございます。

